

令和元年度島根県スポーツ少年団

ジュニアリーダースクール及びリーダー研修会 活動報告

日 時：令和元年7月20日（土）～21日（日）

会 場：県立少年自然の家（江津市）

参加者：ジュニアリーダースクール 14名、リーダー研修会 1名

県内各地からスクール14名、リーダー研修1名、計15名の参加をいただき開催しました。始めは同じ団所属の者同士で話す場面が多く、班の中での会話もぎこちなさを感じられたが、自己紹介や意見交換などを経て、徐々に打ち解けていく様子が見て取れました。

昼食後には、施設プログラムである「GGG～江津グループワークゲーム～」に参加し、施設指導員の巧みな指導の下、仲間で協力して様々なアクティビティに挑戦するうちに、参加者間の距離が一気に縮まり、団員それぞれも積極性や個性を発揮するようになってきました。

「運動プログラムを考える」では、まず始めに障害者スポーツの「ゴールボール」を体験。視界を真っ暗にする専用ゴーグルの装着により、相手ゴールの方向が分からず、とんでもない方向にボールを投げる団員や、転がってくるボールの位置を鈴の音だけで察知することは不可能と判断し、初めから寝転がってゴールを阻止しようとする団員など、終始笑いの絶えない楽しい体験となりました。視界のない状態で、音や地面の凹凸を頼りに活動することの大変さを、それぞれが身をもって感じ取り、障害のある方がどのような苦勞を持っているのかを、考える良い機会となったように思います。

その後、運動プログラムの考案、発表では、体育館内にある物品と既設の遊具を用いて、独創的な運動プログラムが発表されました。しかし、自分たちの班が考案したプログラムのルールを、実施してもらう班に対して正確に説明することが難しかったようで、実施者によってはルールが独自化し、周囲の笑いを誘っていました。湿度の高い中での活動となりましたが、適度に風も入り、ゴールボール、運動適正テストの実施と併せて程よく汗を流しました。

夕食後には、初日の最終プログラムとして「ナイトハイク」を予定していましたが、雨天のため急遽「光の芸術」に変更しました。作品の図柄決めから、実際のろうそく配置など、各班しっかりと連携し、素晴らしい作品を作り上げました。ろうそくの点灯が終わり、照明が消えた瞬間、歓声に包まれるとともに団員、指導者が一体となり、ろうそくの放つ柔らかな光に、しばらく言葉もなくただ見つめる姿が印象的でした。

2日目は、初日の疲れを残した表情の団員も多く、座学では眠気と闘っているようでしたが、最終プログラムの「振り返り」では、今後の団活動の目標やリーダー活動への意欲など、前向きな意見が多く発表され、今後の頼もしさを感じさせてくれました。

全体をとおして、怪我やトラブルなく、参加した団員が皆元気な笑顔で全プログラムを修了することができ、スクールに参加の14人全員がジュニアリーダーとして認定されました。今後、自身の団での活躍はもちろん、様々な事業やリーダー会活動にも積極的に参加してくれることを期待しています。

○活動内容

